

アジアにおけるSoTLリーダーシップ  
高等教育機関において SoTL文化を浸透させる

帝京大学SoTLシンポジウム2021

シンガポール国立大学  
Chua Tian Pohコミュニティリーダーシップセンター  
(Chua Tian Poh Community Leadership Centre)理事  
Chng Huang Hoon准教授

2021年10月16日

Email : [clcchh@nus.edu.sg](mailto:clcchh@nus.edu.sg)

# 私自身、私の役割、勤務場所および背景について

## シンガポール国立大学

- 2008年 – 2012年 Centre for Development of Teaching and Learning (CDTL) 理事
- 2012年 – 2020年 : アシスタントプロボスト (学部教育)

## International Society for the Scholarship of Teaching and Learning (ISSOTL)

- 2018年 – 2020年 : アジア太平洋地域担当 副会長
- 2020年 – 2022年 : 共同代表

- 「SoTL論の周辺部において : アジアからの視点」 (*On the Margins of SoTL Discourse: An Asian Perspective*)

(Peter Lookerと共著, 教授と学習の調査 Teaching and Learning Inquiry) , 2013, TLI 1:1)

- 「様々な国や地域から変化を主導する : 教授学習の学問的研究を背景に当てはめる際の課題」 (*Leading change from different shores: The challenges of contextualizing the scholarship of teaching and learning*) (Katarina Mårtensson, Brenda Leibowitzと共著, TLI, 2020, TLI 8:1)

# 本講演の目的

- アジアにおけるSoTL推進国(香港、マレーシア、シンガポール)の経験を共有する
- 展開中の戦略
- 直面している課題
  
- 2つの主な考え方を共有する
  - (1) 教授と学習に関するマインドセットを変えるために利用可能な機会  
(様々な課題の中でSoTLを推進する)
  - (2) 背景が大事  
(世界的SoTL ネットワークへのアクセス - 我々のアジアというロケーションを視野に入れ続けなくてはならない)

## 教授とSoTLに関する帝京大学における状況

- 勤務時間の50%以上を教えることに使っていますか。
- 自分の教え方に注意を払っていますか。
- 学生の学習の仕方に注意を払っていますか。
- 自分の教え方とそれが学生の学習にどう影響しているかの両方を重点的に考えて、それによって教え方を調整していますか。
- SoTLについて聞いたことがありますか。

## ランディ・バース（1998-1999）：『問題』としてのteaching

- 「学問と研究において、『問題』を抱えていることは、調査プロセスで最も重要である。ありとあらゆる創造的・生産的活動は、こういった生成的疑問を基盤として展開している。
- しかし、教える際に「問題」はないことが好ましく、問題がある場合はあなたはそれをきっと解決したがるだろう。
- 同僚に対してその同僚の研究における*問題*について尋ねることは、ある種の招待であるが
- ある人の教える際の問題を尋ねたら、非難のように感じるだろう。
- 教え方における問題の認識を最終修正から継続的研究に変更することこそ、教授の学問的調査という運動の最重要要素である。」（p.1）

## SoTLの役割を重視する (SoTLとは何かではなく)

- 「SoTLとは何か」と尋ねるのは難しい場合がある
- 「これこそがSoTLの定義」という代わりに→
- 「これがSoTLの目的で、あなたにとってこれらはどんな役割を果たすでしょうか？」

*(Peter Felten, p.c. 2021年9月)*

## Hutchings, Huber & Ciccone (2011)

「教授学習の学問的研究（SoTL）は、自身のコースやプログラムを改善するために学生の学習を密接かつ批判的に観察するよう、教授たちに奨励する様々なプラクティスを網羅している。

学究的探求と、教えるという仕事を構成する様々な知的作業とを組み合わせたアプローチと理解するのがいいだろう。」

*(Hutchings, Huber, and Ciccone, 2011, p.6?, 教授学習の学問的研究に関する再考 (The Scholarship of Teaching and Learning Reconsidered) )*

# Nancy Chick

## SoTL 入門

### SoTLとは...

- 高等教育における学生の学習およびそれに影響する教え方の取り組みとプラクティスを改善するために[調査する]
  - 教授と学習との関連性が高い研究によって情報を得る
    - [我々の] 学問分野に関する専門知識から[引き出す]
      - 学習者の背景において関連性が高い学習者のエビデンスを[収集して分析する]
        - 教授と学習に関する知識とプラクティスに貢献するため、  
広く共有する



**Peter Felten (2013)**

**「SoTLにおけるグッドプラクティスの原則」**

**「世界中の様々な形の多様なSoTLを尊重する」**

SoTL研究を評価するための五原則:

- (1) 学生の学習を調査する
- (2) 背景に基づいている
- (3) 方法論がしっかりしている
- (4) 学生との協力において実施されている
- (5) 適切に公になっている

「これらの原則は、高等教育における教授と学習を向上させるだけでなく、おそらくは変革をもたらすSoTLのビジョンを明確に表している。」(Felten, 2013, TLI, 1:1)

# Erik Blair (2014)

## 「考え方をローカライズする」

- 「精査することなく適用できる壮大な考え方を求めるのではなく、**考え方をローカライズする必要がある。**」 (Blair, 2014, p.335)
- 「SoTLを通じた学力向上は、**地理的背景**とそこに住む人たちが特有の**ニーズ、願望、野心について考えること**を基盤としている。」 (pp.337-338)

「様々な国や地域から変化を主導する:教授学習の学問的研究を背景に当てはめる際の課題」

Chng Huang Hoon, Brenda LeibowitzおよびKatarina Martensson (2020, TLI, 8.1.3)

アジア、ヨーロッパ、アフリカ という異なる背景における学問的研究の主導を通じた3つの過程

我々は以下を主張する:教授学習の学問的研究(SoTL)のプラクティスの多様性を明確化し、その際に各プラクティスを地理的、社会文化的および政治的背景と密接に結びつける必要性

我々の要求:思考、言語および行動において再帰性を実践する

その目的は、SoTLに関する我々のメンタルモデルと思い込みおよびSoTLが我々や他者にとってどのような在り方となるかを活発に最重視すること、我々と同じ背景を共有しない学者を慎重に関与させること、そして我々全員を国際組織の「国際」の中に置くインクルーシブなマインドセットとプラクティスを目指すこと。

## Chng, Leibowitz & Mårtensson (2020)

- 我々の機関および地域内の様々な声は全て…我々のSoTL研究の定義を推進する重要な要素である。
- SoTLネットワークは、英語圏において確立されたSoTLネットワークから排除された距離のある場所をも繋げ…当該関係を定義する中で、我々は…我々自身の国や地域から「SoTLを行う」ことの意味を[理解する]よう努力している
- 我々は、[我々]のナラティブが、SoTLが同様に背景に沿って枠組みに入れられ解釈される必要があるかもしれない他の国や地域に対して情報を提供してそうした地域に影響を与えることを望んでいる。」 (p.37)

# では、我々は教授学習に関するどのような課題を調査するのか 最近のTLI 研究の例

## 繰り返し発生する課題

- 点数のつかないオンラインコースに関して**学生がどう捉えているか**
- **ゲームベースの学習**
- コンピュータ入門を学んでいる学生の**学習を統合する**
- 評価**フィードバック**に対する学生の感情的反応
- **メンターを使ったアプローチ**

## 現在の課題

- **パンデミックのストレスの中でSoTLを行う**
- **各自違った時間に参加するオンラインのディスカッションフォーラム**
- **不合格/落第してもOK**
- **学生が成功するための戦略**
- **人種/人種的公平を教える**

## South研究における最近のSoTLの例

- カリキュラム、教材、評価を再調査する
- 教授と学習に対するSNSの影響
- アフガニスタンにおける看護師を対象としたe-learningにおける課題
- ケニアにおけるオンライン共同作業で学生が体験していることと認識していること
- 南アフリカの映画学校におけるエージェンシーを高く評価する
- ウガンダにおける仕事/学習プログラム
- ザンビアにおける田舎・地方の影響
- パキスタンにおける融合型メンタルヘルスカリキュラム
- シンガポールにおける反転授業での教授

## AJSoTL研究の例

- 薬学部におけるグループゲームを使って学生の学習意欲を高める
- コンテキストベースで統計リテラシーを教える
- 応用物理学でオーセンティックラーニング
- PBL（問題解決型学習）における講師不足
- パワーポイントを超える
- オンラインコースのデザイン
- CoP
- PhDコースをデザインし直す（すなわち学際的に）

# アジアのSoTL推進国：香港

## HKUとCUHKの考え方

- HKU教授賞 (Teaching awards) (省察教授基準を含む)
- HKU 大学の教授イベント (例：教授フェスティバル (Teaching Festival)、教授と学習カンファレンス、テクノロジーと評価カンファレンスに重点)
- 教授開発補助金 (Teaching Development Grant)、年に3回、SoTLはアウトプットとして指定されている
- CUHK 教授学習エキスポ。年に一度教職員向けに開催し、革新的な教授法や教授において向上した点を共有する
- CUHK 教育開発助成金 (Teaching Development Grant/TDG) 3年に一度授与 (プロジェクトの成果の浸透が期待される場合だが、SoTLへの言及はない)
- CUHK 大学教育賞 (University Education Award)、副総長模範教授賞 (Vice-Chancellor's Exemplary Teaching Award) および最優秀学部教授賞 (Faculty teaching excellence award)



# アジアのSoTL推進国：マレーシア

## UNIMAS の考え方

- 戦略：**助成金**の授与（例：UNIMAS SoTL助成金）
- **エンゲージメントプラットフォーム**（例：SoTL掲示板）
- より公の大学レベルの**イベント**：UNIMAS SoTLシンポジウム（UNIMAS SoTL Symposium）

「Kotterの変革モデルによるSoTL文化への適応」 Chen Chwen Jen著,  
2021, IJAD（詳細は次の2枚のスライドを参照）

# Chenが提唱するUNIMASにおけるSoTL文化適応の8つのステップ

(1) 関連性の高い関係者全員からSoTLに対する支持を得る。

(2) 大学のトップマネジメントが Centreに権限を与えた。

- 大学レベルと学部レベルの委員会が研究者によるSoTLへの関与について戦略を立てる。
- SoTL専門家チームが質の高いSoTLプロジェクトのレビューと支援を行う。

(3) 大学は、教授と学習の発展と革新により「将来の準備ができた」卒業生を育てることなどをビジョンとして掲げている。

(4) 副総長が年次演説の中でこのビジョンを正式に発表

- Centre は、このビジョンを広めるために他にも多様な手段を採用した。

## Chen (2021) (続き)

(5) 大学は、研究者への資金提供というSoTLへの関与を奨励する直接的方法により、SoTL 研究を支援した。

(6) SoTL研究と結果は、SoTL先駆者たちが自身の研究の成果を共有するためのセッションを通じて共同作業を継続する手段として開示された。

(7) 大勢に関与させる戦略が大学中心の助成金により実施された。

(ステップ5と異なり、この助成金は、特定された学部教育プログラムのコーディネーターを務める研究者グループが対象)

(8) 大学は、研究者の年次業績評価と昇進において研究者によるSoTLへの関与を評価した。

# アジアのSoTL推進国 : シンガポール

## NUSの考え方

- 戦略: **助成金**の授与(例:教授向上助成金 (Teaching Enhancement Grants)、教育者開発基金 (Educator Development Funds)、CDTL/PVO からの学習委員会基金 (Learning Communities Fund from CDTL/PVO) )。
- **エンゲージメントプラットフォーム** (例: Eリソースサイト – 同僚の研究を紹介して共有するティーチングコネクション (Teaching Connections) )
- 我々の **ジャーナルプラットフォーム**により同僚がより高いレベルで共有できる (**AJSoTL**)
- より公の大学レベルの **イベント**: NUSのティーチングデイ (Teaching Day)と年次CDTLカンファレンス (Annual CDTL Conference)、SoTL-アジアシンポジウム ( SoTL-Asia Symposia /2017年と2019年)
- **その他の活動**:学生をパートナーとして関与させることに関する会話・報告 (**SoTL-Asia, SoTL-NUS 配布リスト**)
- 推進のためのSoTL基準を記す **教育者トラックの方針** (Educator Track Policy)

## 共通する課題

- **研究集中型文化** – 「また従妹」としての教育
- 特定の学問分野の刊行物により 定義された/褒美を与えられた**インパクト**
- **文化/マインドセット**: 教えることに関する「意見」、変化への抵抗
- 優れた教えかたであることを示す方法として **学生からのフィードバック**
- **間違った考え**
  - (1) SoTLは、社会科学において一部の人のためのものとしてみなされている教育的研究である
  - (2) 教員のSoTLをどう行うかについての自信の無さ  
(SoTLの実施は特定の学問分野の研究と異なるため難しい)

# SoTL研究の機会

- 機関における推進者とリーダーシップ
- 資金提供の利用可能性
- インセンティブとしてキャリアアップ – 基準を書き換える(例: 教育者トラック(Educator Track)、助成金/資金提供)
- パンデミックにより学習教授センターに対する知名度とニーズが高くなった。学習成果と教授介入に対してより明確に注意を払っている
- 学生の関与と質の高い教育に対して外部の関係者がプレッシャーを与える

## 2つの主な 考え方:

(1) SoTL文化の構築と変革管理において様々な困難に直面しているが、**それにも関わらず、機関と同僚のマインドセットの変化の過程には多くの機会がある。**

(2) 我々は、SoTLに関して豊富なリソースを利用し、世界的ネットワークにおける会話に参加することができるが、**我々のアジアというロケーションからのポジショナリティを考えることが重要である。**

# References

- Bass, R. (1999), “The scholarship of teaching: What’s the problem?”, *Inventio*, February 1999, Vol. 1, No.1.
- Blair, E. (2014), “Academic development through the contextualization of the scholarship of teaching and learning: Reflections drawn from the recent history of Trinidad and Tobago”, *International Journal for Academic Development*, 19:4, pp.330-340.
- Chen, C.J. (2021), “SoTL enculturation guided by Kotter’s model of change”, *International Journal for Academic Development*.
- Chng, H.H., Leibowitz, B. and Mårtensson, K. (2020), “Leading change from different shores: The challenges of contextualizing the scholarship of teaching and learning”, *Teaching & Learning Inquiry*, 8(1), pp.24-41.
- Chng, H.H. & Looker, P. (2013), “On the margins of SoTL discourse: An Asian perspective”, *Teaching & Learning Inquiry*, 1(1), pp.131-145.
- Felten, P. (2013), “Principles of good practice in SoTL”, *Teaching & Learning Inquiry*, 1(1), pp.121-125.
- Hutchings, P., Huber, M. and Ciccone, A. (2011), *The Scholarship of Teaching and Learning Reconsidered*, Jossey-Bass.



お招きいただき、またご静聴いただき、  
ありがとうございました！